**令和元年度　精度管理センター事業について**

**資料３**

**（市町村がん検診事業にかかる個別支援を目的とした市町村訪問）**

◆趣　旨

○府内市町村のがん検診精度管理の向上や受診率向上の取組みについて、現状や課題を把握することを目的とした市町村訪問を平成30年度から3年間をかけて実施している。

○各市町村の課題に対応した個別支援を実施したうえで、大阪府全体として取り組むべき課題を明らかにするとともに、好事例をまとめ研修会でフィードバックする等横展開を図る。

○今年度、訪問によりヒアリングを行った18市町のうち、特徴的な市町について報告を行う。

**＜好事例のＡ市＞**

**平成27年度の40歳以上の国勢調査人口　約11万人**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容 | ヒアリングの印象・助言等 |
| 受診率向上について | ・保健センターで実施している集団検診については、特定健診のとのセットや複数のがん検診のセット検診として実施しており、受診者の利便性を高めている。・個別受診勧奨用の封筒に申込期間を記載し、開封しなくても、がん検診の案内とわかるように工夫している。・年に１度、がん検診案内を新聞に折り込みチラシを60,000部程度配布している。 | ・受診規模の比較的大きな市であるが、集団検診を中心に、市民が検診を受診しやすい環境を整備できていた。また、個別勧奨でも、目立つ黄色の封筒を使用するなどの工夫を凝らしていた。・新聞の主な購読者層は、がん検診のターゲット年齢と一致するため、受診勧奨には効果的と思われる。 |
| 精度管理について | ・精密検査結果は、集団・個別とも精密検査機関から市へ返却された後、一次検診機関へフィードバックする流れになっている。・個別機関では、受診者に対し「精密検査受診後は、市に結果を連絡するように。」と説明しているため、精検受診状況の把握が容易である。・各検診機関から提出されたチェックリストについて、コメントを記載しフィードバックしている。 | ・検診機関のチェックリストにコメントを付けて返却することは、検診機関の精度向上に有用だと考える。精度管理システムを利用し、検診機関別のプロセス指標も併せて返却することを勧めた。 |

**＜課題が明らかになったＢ市＞**

**平成27年度の40歳以上の国勢調査人口　約6万人**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容 | ヒアリングの印象・助言等 |
| 精度管理について | ・胃・肺の読影については、集団・個別とも医師会が実施しているが、市の担当者は実施状況を把握しておらず、精度管理データのフィードバックも行っていない。そのため、市のがん検診の課題（要精検率・精検受診率が許容値を満たしていない）について、一次検診機関と共有できていない。・精検結果の把握は、年1回要精検者のリストを一次検診機関に提供し、記載してもらうという体制であり、未受診者に対する精検受診勧奨は実施できていない。 | ・医師会や一次検診機関と、情報共有を行うために、まずは各指標をフィードバックする必要がある。精度管理システムを用いることで、データの提供が可能であることを伝えた。・精検結果を府の統一様式を利用し、精密検査機関から直接市に結果が返却されるようにするなど、把握方法の見直しをするよう勧めた。 |

**＜課題に対し適切に対応したＣ市＞**

**平成27年度の40歳以上の国勢調査人口　約4万人**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容 | ヒアリングの印象・助言等 |
| 精度管理について | ・令和元年度より、仕様書を提示した上で入札にて決定した検診機関が、検診や結果通知の過程で様々なトラブルを起こした。繰り返し、改善を促しても解決されなかったため、年度途中であるが、契約を打ち切った。 | ・問題が生じるごとに、検診機関に対し申し入れを行ったが、改善されなかったとのことであったため、年度中に委託先を変更するという決断をしたことは、適切な対応であると考える。・仕様書やチェックリストの遵守状況は、必ず確認が必要である。 |